■中山みき　　宗教家。天理教の教祖。<大塩平八郎乱>直後に神懸りし，<王政復古>時に公認，弾圧されるも発展。
なかやまみき
古事記伝・・1798＝　　大和国山辺郡三昧田村で，庄屋前川家の長女に生まれる。

生家は浄土宗。

幼少から深く来世の救いを信じていた。

ﾛｼｱ船狼藉・ 1807＝ **9歳：**

・・・・・・1810＝12歳：丹波市(天理市)近郊の庄屋敷村の**_富農中山家に嫁ぐ。**

_中山家は棉屋，質屋を兼ねる商人化した地主であったが，家業を顧みない夫にかわって家事，農事に心身を労し，夫とは心が触れあうこともないまま，自己犠牲と忍従の生活を続け，

伊能測量終・1816**＝18歳：_浄土宗の檀那寺で五重相伝をうけたほどの篤信者であったが，**

水野忠成老中1818＝20歳：

伊能図完成・1821＝23歳：長男誕生。

以後，1男5女をもうけるが，うち2人は早世。

異国船打払令1825**＝27歳：**

_浄土の信仰によっても，封建社会に生きる主婦としてのみきの内面は満たされず，年とともにその苦悩は深まる一方で，

富籤流行・・1830＝32歳：**_お蔭参りが流行し，丹波市を通る参宮の群衆に触れて，神の力によって世が変わると信じて熱狂する人々の宗教的興奮を実感し，**

高島砲術・・1834**＝36歳：**

大塩平八郎乱1837＝39歳：
適塾ｵｰﾌﾟﾝ・ 1838＝40歳：***長男の足の病気を治すために招いた山伏の加持台をつとめて，三日三晩神がかりに陥り，みずから"天の将軍""元の神，実の神""大神宮"であり，"三千世界のたすけ"のために天降ったと宣言した。この年が天理教を開教である。**

順天堂始・・1843**＝45歳：**

阿部正弘首座1845＝47歳：
_生き神となることでみきは一挙に"家"から解放されたが，中山家はこののちみきの際限ない施しなどによって，没落の一途をたどる。

万次郎帰国・1852**＝54歳：**
ペリー来航・1853＝55歳：**_夫が死去し，遺された子どもと極貧の生活。**

この頃から，**_安産と病気なおしの生き神として評判となり，周辺の農村で布教活動を行うようになり，**

桜田門外変・1860＝62歳：
遣欧使節・・1861**＝63歳：**
_周囲の宗教や小講社との対決を通じて，教義と儀礼が急速に整い，

禁門の変・・1864＝66歳：**_最初の勤場所を建て，これを契機に，地方の教化を図り，**
大政奉還・・1867＝69歳：***講社は吉田神道からも天輪王明神として公認される。**
明治維新・・1868＝70歳：**_「みかぐらうた」をつくる。親神への信仰によって"ふしぎなたすけ"をうけることができ，"陽気づくめ"の"このよのごくらく"が到来すると説いた農民の生活に根ざしたみきの教えは，現世での全生活的救済を約束し，ヒューマニズムと平等観を強調することによって，変革期の民衆がもとめる世直しの願望を反映していた。その教線は河内平野から大阪に及び，**
戊辰戦争終・1869＝71歳：**_教義歌「おふでさき」の述作を始めた。**
初の日刊新聞1870**＝72歳：**
学問のすすめ1872＝74歳：**_教部省が設置され組織的な上からの国民教化が実施されると，民間の宗教はきびしい圧迫をうけるようになり，みきも前後18回にわたって検挙・勾留されたが，神業をはばむ"高山"(権力者)の暴圧にはげしい怒りをもやし，"谷底"の民衆が救われる刻限の切迫をうったえつづけた。**
明治6年政変 1873＝75歳：
_人間世界の創造を説きあかした"こふき("泥海古記")"の神話をまとめ，創造の聖地とする中山家の地，"ぢば"に"かんろだい"の建設をすすめ，
琉球処分・・1879**＝81歳：**
新体詩抄・・1882＝84歳：***「おふでさき」完成。警官が襲い建造中の"かんろだい"の石材を持ち去ったが，弾圧に屈しなかった。禁圧下で天理教は全国的な発展をつづけ，教団幹部は，みきの意に反して国家神道のわく内で活動を合法化するための工作を進め，**
内閣発足・・1885＝87歳：**_教会設置の許可が出たが，**
帝国大学始・1886＝88歳：**_再び12日間警察に勾留され，この弾圧がもとで病床についた。**
国民之友始・1887＝89歳：***最後に，信仰が法律にも政治支配にも優越することを教え，没した。**
「人づくり風土記(奈良)」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，「目でみる日本人物百科」，「日本の女性」，